

さよ原うし ちやいひかゝるし

人とのあはれいば 文子さすなこは 木わわ

たんく とし 正しく なる人

ころ いう人も いまんだし

と氣持を おこさせ てゐる

人は わかろう原いの木 ありたりそ

うら おもてし だけて原い

立無の 影かろう わかりはくし

瞬由の じ ひとま ~~せ~~ うわさ ことがあり そは

つたわつて まても 長つづき

とはかぎう原い

人はわかろう原い

さけつきあいは やめた とはいかないかう

まつかしい

今日でひかると おめにかかるとは 信原い

ではさよう原う といかなく

氣持をいれていさ ぬうた

工と水ありたら 又あそぶ原う

さよ原う 原んて 言いたく原い

まよと 原えさよね と言つた

そればかりだが

私への為等は 取りかたい

話とんと

担当をたると

何もいわず さうさへ行つてしまふ

ふりまぐことなどない

徳本のいふまゝの 下 やまの原物つくろひ

と云つた

今日は一巻を命 づくりたかつた

といつたのうらた 短説を いのち木

同行を ちんと づとめてくた

さうなる と言わず

又ね とかえつて行つた

2023  
7/31